

# ボランティア活動報告 2016

## 『ボランティア学習会』

日時:2016年5月5日(木)

場所:閑上の記憶、愛島東部仮設住宅

5月5日に、毎年実施している『ボランティア学習会』を行いました。この学習会では東日本大震災で被災した閑上地区を訪問し、語り部の方のお話を聞いた後、愛島東部仮設住宅に行き、仮設住宅に住む被災者の方と語り合うお茶会を実施したりしました。

まず、学生は閑上地区に向かうバスの中で語り部の方のお話を聞きました。震災当時の写真や、現在車窓から見える景色を見ながら、震災以前の閑上地区の様子や、津波でどのような被害を受けたのかなどについて話を聞きました。



閑上地区に到着すると、日和山と慰霊碑、『閑上の記憶』を見学し、当時のお話を聞いた後、映像資料を見ました。“いのちの大切さ、向き合うことの大切さ、語りつぐことの意味”についてお聞きすることができました。日和山では頂上で閑上地区一帯のかさ上げ工事の進展状況や、津波の被害で倒れたままになっている石碑などを見ることで、学生たちは5年という月日の流れについて様々なことを感じた様子でした。



愛島東部仮設住宅では、名取市の語り部ガイドであり、この学習会の直前に熊本地震支援を行った長沼俊幸さんのお話を聞くことができました。東日本大震災後に避難所で経験した問題が、今回の熊本の避難所でも起こっていることへの悔しさや、伝えていくことの大切さが語られました。ボランティアチーム TASKI のメンバーも、熊本地震発生後から募金活動を続けていたこともあり、長沼さんの話に真剣に耳を傾けていました。



その後は仮設住宅の皆さんとお茶会をしながら交流をしました。「今日、楽しみにしてたんだよ」、「次はいつ来るの?」といった住民の皆さんの声が聞こえ、笑顔の溢れる時間となりました。初めて活動に参加した1年生は、少し緊張している様子でしたが、少しずつ住民の皆さんと打ち解け最後には笑顔で交流する姿が見られました。

### 〈活動に参加した1年生の感想〉

今回のバスツアーで初めて TASKI の活動の参加、閑上地区への訪問をしました。閑上地区では津波による甚大な被害と復旧工事の遅れを実感し、心が痛みました。愛島東部仮設住宅での住民の皆様との交流では、震災のつらさを感じさせない明るさや温かさで私の方が元気をもらった気がします。これからも活動に参加したいと思うので閑上の皆様の力になれるよう頑張りたいと思います。（環境構想学科1年 N.O）

閑上で聞いた話、見たものは、5年の月日を「まだ5年なんだ」と感じさせられるものとなりました。初めての参加でしたが、日和山での光景、閑上の記憶は後世に伝える必要のあるものだと思います。仮設住宅では住民の方と近い距離で話をし、元気を届けようと心掛けました。今回は全員の方と交流ができなかったので、次回からはたくさんの方とふれあいたいです。（人間心理学科1年 D.H）

